

令和元年度厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業
「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関する疫学的・コホートの調査研究と情報の普及啓発法の開発
ならびに診療体制の整備と均てん化に関する研究」班
分担研究報告書

研究分担課題名：HIVをはじめとする性感染症と妊娠に関する情報の普及啓発法の開発

研究分担者：桃原 祥人 東京都立大塚病院産婦人科部長
研究協力者：塚原 優己 国立研究開発法人国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター
産科・診療部長
渡邊 英恵 独立行政法人国立病院機構豊橋医療センター看護部・看護師長
羽柴 知恵子 独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター外来・副看護師長
廣瀬 紀子 地方独立行政法人山梨県立北病院医療安全管理室・看護師
津國 瑞紀 独立行政法人国立病院機構仙台医療センター母子医療センター・助産師
佐野 貴子 神奈川県衛生研究所 微生物部・主任研究員
鈴木 ひとみ 国立研究開発法人国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発セン
ター・コーディネーターナース
長與 由紀子 独立行政法人国立病院機構九州医療センターAIDS/HIV 総合治療セン
ター・HIV 専任看護師
谷村 憲司 神戸大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター・准教授
森實 真由美 神戸大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター・講師
木内 英 東京医科大学臨床検査医学分野・主任教授
浅野 真 東京都立大塚病院産婦人科医員

研究要旨：

一般市民向けの講習会、SNS を用いて性感染症に関する情報を発信すること、さらに日本産婦人科感染症学会や日本性感染症学会の監修を受けて、性感染症に関する小冊子を作成することなどにより、一般市民の HIV/AIDS への偏見を解消し、各種性感染症に関する情報の普及啓発に寄与することが目的である。令和元年度はエイズ文化フォーラム 2 か所、大学祭 2 か所、市民公開講座 1 か所で講演会等を行った。Twitter アカウントは定期的に更新され、HIV に関する新情報を発信している。さらに A3 折込型リーフレット「クイズでわかる性と感染症の新ジョーシキーあなたはどこまで理解しているか!？」を令和元年度に発刊した。今後このリーフレットを喜多分担班による妊婦アンケート調査の定点施設等で配布し、妊婦の教育啓発効果を検証し、知識レベルの向上を目指す。さらに「HIV や梅毒をはじめとする性感染症に関する小冊子」を令和 2 年度中に発刊し、リーフレットと共に若者への教育啓発資料とする。

A.研究目的

HIV 等の性感染症と妊娠に関する若者の知識レベルは低く、学校教育以外の方法でもこれを向上させる必要がある。HIV をはじめとする性

感染症と妊娠に関する情報の普及啓発法の開発により国民に根強く残る HIV/AIDS への偏見を解消し、HIV 母子感染のみならず、性感染症全般とその妊娠への影響に対する国民の理

解向上および予防啓発に寄与する。

B.研究方法

1. 全国各地で開催されているエイズ文化フォーラムや学園祭への参加、あるいは市民公開講座等を企画して、HIV感染に関する情報と研究成果を周知することにより、国民のHIV感染妊娠に関する認識と知識の向上を図る。

2. 妊婦のHIVスクリーニング検査や妊婦健診の重要性および各種性感染症に関する情報の普及啓発を目的に、A3折込型リーフレット「クイズでわかる性と感染症の新ジョーシキーあなたはどこまで理解しているか!？」を発行し、妊婦や若者に配布し知識の向上を図る。さらに小冊子「HIVや梅毒をはじめとする性感染症に関する小冊子(仮題)」を日本産婦人科感染症学会や日本性感染症学会の監修を得て作成し、印刷物・ホームページ・SNS・マスコミなどを媒体として広く国民に周知する。学会関連の有識者、市民団体、行政などの関連機関と連携しながら、令和2年度の刊行と拡散を目指す。

3. Twitterアカウント

(<https://twitter.com/HIVboshi>)を平成30年7月に取得した。適時コンテンツを増加し、HIVをはじめとする性感染症を中心に情報提供を行う。

(倫理面への配慮)

調査研究においては、平成29年2月改正告示の文部科学省・厚生労働省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を遵守しプライバシーの保護に努めた。

C.研究結果

1. 令和元年度は、エイズ文化フォーラムは2か所に参加・出展した。8月4日は横浜で開催され、当講演会への参加者は30名であった。地域住民、学校保健や医療の関係者、学生などで、他県からの参加者も多数あった。HIV/AIDSと現在感染者が急増している梅毒について、病

気の基礎知識と妊娠・出産への影響について説明した。HIV感染告知を受けた女性の反応やサポートについて、また妊娠・出産など女性特有のライフスタイルへの影響についての質問が多かった。9月30日は京都で開催され、当出展への訪問者は5名のみであった。大学祭は2か所に参加した。11月3日は日本大学医学部・看護専門学校共催で、板橋保健所と共同で啓発カードを100枚配布した。11月24日は東京理科大学葛飾キャンパスで、葛飾区保健所と共同でミニ講演会を開催したが参加者は5名にとどまった。市民公開講座は「感染症から母子を守るために～HIVをはじめとする性感染症を中心に～」と題して、那覇市IT創造館で2020年2月8日に開催した。那覇市内と近隣の高校・大学・産婦人科医療施設および報道各社に参加案内状とポスター(資料1)を郵送した。時期的に新型コロナウイルス感染拡大の懸念から、参加者は医療関係・教育関係の18名にとどまった。

2. さらにA3折込型リーフレット「クイズでわかる性と感染症の新ジョーシキー君はどこまで理解しているか!？」(資料2)を令和2年3月に刊行した。これを令和2年度に喜多分担任による妊婦アンケート調査の定点施設および奈良県総合医療センター近隣の奈良市内分娩取扱施設で配布し、妊婦の教育啓発を図ることで知識レベルの向上を目指す。「HIVや梅毒をはじめとする性感染症に関する小冊子」は令和2年度の発刊を目指して準備中である。

3. Twitterアカウントは定期的に更新され、HIVに関する新情報を発信している(資料3)。令和2年3月現在、投稿コンテンツは34件で、フォロワー数も順調に増加し、2020年3月現在246名である。

D.考察

エイズ文化フォーラムや学園祭などの既存の機会を利用した教育啓発活動では、事前広報活動の不足などのため集客数の確保に課題が残

った。また特定された参加者である可能性があり、一般国民の知識レベルの向上に寄与できているとは言い難い。このような観点から、市民公開講座の開催やリーフレット・小冊子の作成と配布による教育啓発法は新しいアプローチであると考え。そして HIV や梅毒をはじめとする性感染症に関して、高校生や大学生を対象とした公開講座やリーフレット・小冊子による地域的・定点的介入が発端となり、国民全体の知識レベルの向上につながることを検証していくことも重要である。妊婦健診時におけるアンケート調査は知識レベルの向上を検証できる手法である。この検証結果を公表することにより全国の自治体やマスコミのさらなる協力が得られ、広域的な介入成果が得られるものと期待する。

E. 結論

HIV や梅毒をはじめとする性感染症に関する正確な情報を公開講座、リーフレットや小冊子、ガイドラインやマニュアル、マスコミなどを媒体として医療従事者及び一般国民に提供し、教育啓発を行うことにより、今後われわれが提案していく HIV 感染妊娠に対するわが国の診療体制を国際的標準モデルの一つとして推奨できるものにする事ができる。

G. 研究業績

論文

(欧文)

1. Uenaka M, Morizane M, Tanimura K, Deguchi M, Kanzawa M, Itoh T, Yamada H. Histopathological analysis of placentas with congenital cytomegalovirus infection. *Placenta*. 75:62-67,2019. doi: 10.1016/j.placenta.2019.01.003. Epub 2019 Jan 4.
2. Tanimura K, Yamada H. Maternal and neonatal screening methods for congenital cytomegalovirus infection. *J Obstet Gynaecol Res*.45:514-521,2019. doi: 10.1111/jog.13889. Epub 2018 Dec 27.
3. Shiojiri D, Kinai E, Teruya K, Kikuchi Y, Oka S. Combination of Clindamycin and Azithromycin as Alternative Treatment for *Toxoplasma gondii* Encephalitis. *Emerg Infect Dis*.25:841-843,2019. doi: 10.3201/eid2504.181689.
4. Komatsu K, Kinai E, Sakamoto M, Taniguchi T, Nakao A, Sakata T, Iizuka A, Koyama T, Ogata T, Inui A, Oka S. Various associations of aging and long-term HIV infection with different neurocognitive functions: detailed analysis of a Japanese nationwide multicenter study. *J Neurovirol*. 25:208-220,2019. doi: 10.1007/s13365-018-0704-7. Epub 2019 Mar 11.
5. Ohya S, Morioka I, Fukushima S, Yamana K, Nishida K, Iwatani S, Fujioka K, Matsumoto H, Imanishi T, Nakamachi Y, Deguchi M, Tanimura K, Iijima K, Yamada H. Efficacy of valganciclovir treatment depends on the severity of hearing dysfunction in symptomatic Infants with congenital cytomegalovirus infection. *Int J Mol Sci*.20,2019. pii: E1388. doi: 10.3390/ijms20061388.

6. Yamada H, Tanimura K, Deguchi M, Tairaku S, Morizane M, Uchida A, Ebina Y, Nishikawa A. A cohort study of maternal screening for congenital *Toxoplasma gondii* infection: 12 years' experience. *J Infect Chemother.* 25:427-430,2019. doi: 10.1016/j.jiac.2019.01.009. Epub 2019 Feb 26.
7. Ohyama S, Fujioka K, Fukushima S, Abe S, Ashina M, Ikuta T, Nishida K, Matsumoto H, Nakamachi Y, Tanimura K, Yamada H, Iijima K Diagnostic value of cytomegalovirus IgM antibodies at birth in PCR-confirmed congenital cytomegalovirus infection. *Int J Mol Sci.* 20,2109. pii: E3239. doi: 10.3390/ijms20133239.
8. Sasagawa Y, Yamada H, Morizane M, Deguchi M, Shirakawa T, Morioka I, Tanimura K. Hepatitis B virus infection: Prevention of mother-to-child transmission and exacerbation during pregnancy. *J Infect Chemother.* 25:621-625,2019. doi: 10.1016/j.jiac.2019.03.014. Epub 2019 Apr 11.
9. Albrecht C, Chamley L, Charnock-Jones DS, Collins S, Fujiwara H, Golos T, Grayo S, Hannan N, Harris L, Ichizuka K, Illsley NP, Iwashita M, Kallol S, Al-Khan A, Lash G, Nagamatsu T, Nakashima A, Niimi K, Nomoto M, Redman C, Saito S, Tanimura K, Tomi M, Usui H, Vatish M, Wolfe B, Yamamoto E, O'Tierney-Ginn P. IFPA meeting 2018 workshop report II: Abnormally invasive placenta; inflammation and infection; preeclampsia; gestational trophoblastic disease and drug delivery. *Placenta.* 84:9-13,2019. doi: 10.1016/j.placenta.2019.02.006. Epub 2019 Feb 12. Review.
10. Fukushima S, Morioka I, Ohyama S, Nishida K, Iwatani S, Fujioka K, Mandai T, Matsumoto H, Nakamachi Y, Deguchi M, Tanimura K, Iijima K, Yamada H. Prediction of poor neurological development in patients with symptomatic congenital cytomegalovirus diseases after oral valganciclovir treatment. *Brain Dev.* 41:743-750,2019. doi: 10.1016/j.braindev.2019.04.016. Epub 2019 May 7.
11. Nakasuji Y, Tanimura K, Sasagawa Y, Imafuku H, Morizane M, Fujioka K, Ohji G, Yamada H. Case report of eight pregnant women with syphilis. *J Infect Chemother.* 26 : 298-300,2020. pii: S1341-321X(19)30333-2. doi: 10.1016/j.jiac.2019.10.016.
12. Uchida A, Tanimura K, Morizane M, Fujioka K, Morioka I, Oohashi M, Minematsu T, Yamada H. Clinical factors associated with congenital cytomegalovirus infection: A cohort study of pregnant women and newborns. *Clin Infect Dis.* 2019. pii: ciz1156. doi: 10.1093/cid/ciz1156.
- (和文)
1. 谷村 憲司、山田 秀人：周産期のくすり大事典 妊娠期・分娩時・産褥期・新生児の薬剤

- &ワクチン 133 大解説】(第1部)くすり大解説(第2章)妊娠期のくすり 感染症 トキソプラズマ、ペリネイタルケア 新春増刊：76-77, 2019
2. 重見 麗、岡崎 玲子、大出 裕高、松田 昌和、久保田 舞、矢野 邦夫、鶴見 寿、奥村 暢将、谷口 晴記、志智 大介、池谷 健、伊藤 公人、松本 剛史、倉井 華子、川端 厚、羽柴 知恵子、中畑 征史、小暮 あゆみ、服部 純子、伊部 史朗、今橋 真弓、岩谷 靖雅、杉浦 互、吉村 和久、蜂谷 敦子、横幕 能行：東海ブロックで流行する HIV-1 の遺伝子多型とインテグラーゼ阻害剤に対する耐性変異の経年的頻度解析. 感染症学雑誌 93:312-318, 2019
 3. 岡崎 玲子、重見 麗、松田 昌和、久保田 舞、矢野 邦夫、鶴見 寿、奥村 暢将、谷口 晴記、志智 大介、池谷 健、伊藤 公人、松本 剛史、倉井 華子、川端 厚、羽柴 知恵子、中畑 征史、小暮 あゆみ、服部 純子、伊部 史朗、今橋 真弓、岩谷 靖雅、杉浦 互、吉村 和久、蜂谷 敦子、横幕 能行：東海ブロックにおける HIV-1 非サブタイプ、B の動向調査と伝播性薬剤耐性変異の頻度. 感染症学雑誌 93 : 298-305, 2019
 4. 木内 英：【現在の HIV 感染症と臨床検査】HIV 感染症の予防 感染曝露後予防 (PEP):oPEP,nPEP/PrEP. 臨床検査 63 : 612-618, 2019
 5. 谷村 憲司、山田 秀人：【周産期感染制御の最新情報】産科における感染制御 水痘・带状疱疹(解説/特集). 周産期医学 49 : 829-833, 2019
 6. 辻 満、砂倉 麻央、浅野 真、福岡 真弓、河村 美玲、高橋 暁子、川上 香織、岩田 みさ子、桃原 祥人：当院での過去 4 年間における梅毒合併妊娠 8 例の検討. 日本周産期・新生児医学会雑誌 55 : 760-763, 2019
 7. 石田 倫也、白井 宏幸、白井 宏直、土岐 平、野々田 豊、岩崎 俊之、石倉 健司、野々山 勝人、佐野 貴子：流行性筋痛症とヒトパレコウイルス. 小児科 60 : 1395-1400, 2019
 8. 谷村 憲司：胎児診断から始める治療戦略:治療～難治性疾患へのアプローチ～ 症候性先天性サイトメガロウイルス感染症に対する胎児治療と新生児治療. 日本周産期・新生児学会周産期学シンポジウム抄録集 37 : 75-79, 2019
 9. 佐野 貴子、嘉手苺 将、渡邊 寿美、鈴木 理恵子、稲田 貴嗣、近藤 真規子：神奈川県域の保健所等における HIV 検査数の推移と陽性例の解析. 神奈川県衛生研究所研究報告 49 : 7-12, 2019
 10. 渡邊 寿美、嘉手苺 将、佐野 貴子、稲田 貴嗣、近藤 真規子：神奈川県域におけるインフルエンザウイルスの検出状況(2018/2019 シーズン). 神奈川県衛生研究所研究報告 49 : 32-34, 2019
 11. 谷村 憲司：周産期感染症 CMV,トキソプラズマ. 日本産科婦人科学会雑誌 71 : 2422-2429, 2019
 12. 永田 尚義、岡 慎一、渡辺 恒二、西島 健、瀧永 博之、菊池 嘉、猪狩 亨、大久保 栄高、渡辺 一弘、横井 千寿、秋山 純一、山下 裕之、早川 佳代子、大曲 貴夫、木内 英、上村 直実、糸井 隆夫、河合 隆：【消化管感染症のすべて】免疫不全における消化管感染症. 消化器内視鏡 31 巻増刊 : 31-50, 2019

学会発表

(国内)

1. 谷村 憲司：生涯研修プログラム3：周産期感染症 CMV, トキソプラズマ. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会. 名古屋. 2019.04
2. 大里 和広、杉浦 敦、谷口 晴記、山田 里佳、桃原 祥人、定月 みゆき、戸谷 良造、稲葉 憲之、和田 裕一、塚原 優己、喜多 恒和：妊婦 HIV スクリーニングと未受診妊婦の問題点 妊婦 HIV スクリーニング検査率に関する全国調査. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会. 名古屋. 2019.04
3. 山田 里佳、喜多 恒和、谷口 晴記、塚原 優己、井上 孝実、千田 時弘、大里 和広、中西 豊、定月 みゆき、鳥谷部 邦明、杉浦 敦、桃原 祥人、出口 雅士：日本における HIV 感染妊娠に関する診療ガイドライン初版と HIV 母子感染予防対策マニュアル第7版の改訂について. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会. 名古屋. 2019.04
4. Sugiura A, Ichida H, Nakanishi M, Minoura S, Matsuda H, Takano M, Momohara Y, Sakumoto K, Ohta H, Ishibashi S, Takeda Y, Kita T : Mother to child transmission of HIV in Japan during the antiretroviral therapy (ART) era. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会. 名古屋. 2019.04
5. 山田 里佳、谷口 晴記、塚原 優己、井上 孝実、白野 倫徳、出口 雅士、中西 豊、鳥谷部 邦明、大里 和広、千田 時弘、杉野 祐子、羽柴 知恵子、渡邊 英恵、杉浦 敦、吉野 直人、定月 みゆき、田中 瑞恵、桃原 祥人、喜多 恒和：「HIV 母子感染マニュアル第8版」改訂内容について. 第36回日本産科婦人科感染症学会学術集会. 宮崎. 2019.05
6. 杉浦 敦、山中 彰一郎、竹田 善紀、市田 宏司、中西 美紗緒、箕浦 茂樹、松田 秀雄、高野 政志、桃原 祥人、小林 裕幸、佐久本 薫、太田 寛、石橋 理子、藤田 綾、高橋 尚子、吉野 直人、山田 里佳、定月 みゆき、田中 瑞恵、外川 正生、喜多 恒和：HIV 母子感染の国内分娩例に関する検討. 第36回日本産科婦人科感染症学会学術集会. 宮崎. 2019.05
7. 大里 和広、吉野 直人、伊藤 由子、小山 理恵、高橋 尚子、杉浦 敦、田中 瑞恵、山田 里佳、谷口 晴記、桃原 祥人、定月 みゆき、塚原 優己、喜多 恒和：妊婦 HIV スクリーニング検査率に関する全国調査における未受診妊婦の HIV スクリーニングの状況. 第36回日本産科婦人科感染症学会学術集会. 宮崎. 2019.05
8. 鷲尾 佳一、森實 真由美、内田 明子、谷村 憲司、蝦名 康彦、山田 秀人：妊娠中にパルボウイルス B19 に感染した13例. 第36回日本産科婦人科感染症学会学術集会. 宮崎. 2019.05
9. 中筋 由紀子、谷村 憲司、施 裕徳、内田 明子、上中 美月、白川 得朗、今福 仁美、島岡 昌生、森實 真由美、山田 秀人：梅毒合併妊娠7例の検討. 第36回日本産科婦人科感染症学会学術集会. 宮崎. 2019.05
10. 森實 真由美、上中 美月、谷村 憲司、内田 明子、神澤 真紀、伊藤 智雄、山田 秀人：先天性サイトメガロウイルス感染の胎盤病理所見. 第36回日本産科婦人科感染症学会学術集会. 宮崎. 2019.05

11. 内田 明子、谷村 憲司、上中 美月、森實 真由美、大橋 正伸、山田 秀人：先天性サイトメガロウイルス感染発生の臨床的リスク因子. 第 36 回日本産婦人科感染症学会学術集会. 宮崎. 2019.05
12. 桃原祥人、吉野直人、伊藤由子、大里和広、小山理恵、塚原優己、渡邊英恵、羽柴知恵子、廣瀬紀子、佐野貴子、鈴木ひとみ、長與由紀子、谷村憲司、森實真由美、木内 英、喜多恒和：妊婦健診における HIV 検査の公費負担及び母子感染予防啓発に関する全国自治体アンケート調査. 第 36 回日本産婦人科感染症学会学術集会. 宮崎. 2019.5
13. 鳥谷部 邦明、谷口 晴記、吉野 直人、杉浦 敦、定月 みゆき、桃原 祥人、出口 雅士、大里 和広、喜多 恒和：日本における HIV 感染妊娠に関する診療ガイドライン初版と HIV 母子感染予防対策マニュアル第 7 版の改訂. 第 55 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 松本. 2019.07
14. 桃原 祥人、吉野 直人、大里 和広、小山 理恵、塚原 優己、谷村 憲司、森實 真由美、木内 英、喜多 恒和：HIV 母子感染予防啓発に関する全国自治体アンケート調査. 第 55 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 松本. 2019.07
15. 杉浦 敦、竹田 善紀、市田 宏司、中西 美紗緒、箕浦 茂樹、高野 政志、桃原 祥人、佐久本 薫、石橋 理子、松田 秀雄、吉野 直人、喜多 恒和：HIV 感染妊娠と早産に関する検討. 第 55 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 松本. 2019.07
16. 内田 明子、谷村 憲司、上中 美月、森實 真由美、大山 正平、福嶋 祥代、生田 寿彦、西田 浩輔、藤岡 一路、森岡 一朗、大橋 正伸、山田 秀人：先天性サイトメガロウイルス感染発生に關与する臨床的リスク因子. 第 55 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 松本. 2019.07
17. 大山 正平、福嶋 祥代、生田 寿彦、阿部 真也、芦名 満理子、西田 浩輔、藤岡 一路、森實 真由美、谷村 憲司、飯島 一誠、山田 秀人：先天性サイトメガロウイルス(CMV)感染における CMV 特異的抗体価(IgM/IgG)の診断意義. 第 55 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 松本. 2019.07
18. 施 裕徳、谷村 憲司、笹川 勇樹、内田 明子、上中 美月、白川 得朗、今福 仁美、島岡 昌生、森實 真由美、山田 秀人：膈内マイクロバイオームと流早産との関連. 第 55 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 松本. 2019.07
19. 白川 得朗、森實 真由美、谷村 憲司、出口 雅士、蝦名 康彦、山田 秀人：母体 PVB19 感染の妊娠管理と予防. 第 55 回日本周産期・新生児医学会学術集会. 松本. 2019.07
20. 桃原祥人、吉野直人、伊藤由子、大里和広、小山理恵、高橋尚子、塚原優己、渡邊英恵、羽柴知恵子、廣瀬紀子、佐野貴子、鈴木ひとみ、長與由紀子、津國瑞紀、浅野 真、谷村憲司、森實真由美、木内 英、喜多恒和：HIV 母子感染予防啓発に関する全国自治体アンケート調査と今後の啓発活動の考察. 第 33 回日本エイズ学会学術集会. 熊本. 2019.11
21. 杉浦 敦、山中彰一郎、竹田善紀、市田宏司、中西美紗緒、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、桃原祥人、小林裕幸、佐久本薫、太田 寛、藤田 綾、高橋尚子、大津 洋、吉野直人、山田里佳、定月みゆき、田中瑞

- 恵、外川正生、喜多恒和：本邦における HIV 感染妊娠の将来予測. 第 33 回日本エイズ学会学術集会. 熊本. 2019.11
22. 竹田善紀、杉浦 敦、山中彰一郎、市田宏司、中西美紗緒、箕浦茂樹、松田秀雄、高野政志、桃原祥人、小林裕幸、佐久本薫、太田 寛、石橋理子、藤田 綾、高橋尚子、吉野直人、山田里佳、定月みゆき、田中瑞恵、外川正生、喜多恒和：HIV 感染の判明時期が妊娠後期・分娩後であった症例に関する検討. 第 33 回日本エイズ学会学術集会. 熊本. 2019.11
23. 白野倫徳、山田里佳、谷口晴記、塚原優己、井上孝実、出口雅士、中西 豊、鳥谷部邦明、大里和広、千田時弘、杉野祐子、羽柴知恵子、渡邊英恵、杉浦 敦、吉野直人、定月みゆき、田中瑞恵、桃原祥人、喜多恒和：HIV 母子感染予防の cART ～「HIV 母子感染予防対策マニュアル（第 8 版）」および「HIV 感染妊娠に関する診療ガイドライン（初版）」より～. 第 34 回日本エイズ学会学術集会. 熊本. 2019.11
24. 大里和広、吉野直人、伊藤由子、小山理恵、高橋尚子、杉浦 敦、田中瑞恵、山田里佳、谷口晴記、桃原祥人、定月みゆき、塚原優己、喜多恒和：未受信妊婦の HIV スクリーニングの現状--妊婦 HIV スクリーニング検査率に関する全国調査より. 第 33 回日本エイズ学会学術集会. 熊本. 2019.11
25. 吉野直人、伊藤由子、大里和広、小山理恵、高橋尚子、杉浦 敦、田中瑞恵、谷口晴記、山田里佳、桃原祥人、定月みゆき、外川正生、喜多恒和：妊婦 HIV スクリーニング検査陽性症例の診療対応 一産婦人科全国調査一. 第 33 回日本エイズ学会学術集会. 熊本. 2019.11
26. 吉野直人、田中瑞恵、伊藤由子、大里和広、小山理恵、高橋尚子、杉浦 敦、谷口晴記、山田里佳、桃原祥人、定月みゆき、外川正生、喜多恒和：HIV 感染児の診療対応一 小児科全国調査一. 第 33 回日本エイズ学会学術集会. 熊本. 2019.11
27. 伊藤由子、吉野直人、杉浦 敦、大里和広、小山理恵、高橋尚子、田中瑞恵、谷口晴記、山田里佳、桃原祥人、定月みゆき、喜多恒和：HIV および梅毒感染妊婦に関する全国調査. 第 33 回日本エイズ学会学術集会. 熊本. 2019.11
28. 杉浦 敦、市田 宏司、山中 彰一郎、竹田 善紀、中西 美紗緒、箕浦 茂樹、松田 秀雄、高野 政志、桃原 祥人、小林 裕幸、佐久本薫、太田 寛、石橋 理子、藤田 綾、高橋 尚子、吉野 直人、山田 里佳、定月 みゆき、田中 瑞恵、大津 洋、外川 正生、喜多 恒和：ジョイントシンポジウム「HIV 感染予防の最近の話題-PrEP、U=U などの話題とともに-」 最近の HIV 母子感染の動向. 日本性感染症学会第 32 回学術集会. 京都. 2019.12
29. 山田 里佳、谷口 晴記、塚原 優己、井上 孝実、白野 倫徳、出口 雅士、中西 豊、鳥谷部 邦明、大里 和広、千田 時弘、杉野 祐子、羽柴 知恵子、渡邊 英恵、定月 みゆき、田中 瑞恵、喜多 恒和：ジョイントシンポジウム「HIV 感染予防の最近の話題-PrEP、U=U などの話題とともに-」 HIV 母子感染予防マニュアルについて 児希望 HIV 感染者の感染予防の紹介. 日本性感染症学会第 32 回学術集会. 京都. 2019.12

30. 杉野 祐子、定月 みゆき、谷口 紅、鈴木 ひとみ、池田 和子、大金 美和、中西 美紗緒、菊池 嘉、岡 慎一：国立国際医療研究センター(NCGM)における HIV 感染妊婦の妊娠方法に関する検討. 日本性感染症学会第 32 回学術集会. 京都. 2019.12

H.知的財産権の出願・登録状況

- | | |
|----------|----|
| 1.特許取得 | なし |
| 2.実用新案登録 | なし |
| 3.その他 | なし |

31. 森實真由美：（市民公開講座）感染症から母子を守るために～HIVをはじめとする性感染症を中心に～. 梅毒・風疹の母子感染について. 沖縄. 2020.2

市民公開講座

感染症から母子を守るために

～HIVをはじめとする性感染症を中心に～



日 時：2020年2月8日（土）
16：00～18：00（開場：15：30）

会 場：那覇市IT創造館 大会議室
〒900-0004 沖縄県那覇市銘苅2丁目3-6

- I. HIV 母子感染の現状
- II. 梅毒・風疹の母子感染について
- III. クラミジア・ヘルペス・サイトメガロ・トキソプラズマ・HTLV 等の母子感染について
- IV. 総合討論、質疑応答

参加費
無料
事前申込不要

主催

令和元年度厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業
研究分担「HIVをはじめとする性感染症と妊娠に関する情報の普及啓発法の開発」班
研究分担者：桃原祥人（東京都立大塚病院）

事務局

奈良県総合医療センター 産婦人科
〒630-8581 奈良市七条西町二丁目 897-5 TEL：0742-46-6001 E-mail：obgy@nara-hp.jp

担当

藤田・榎本

令和元年度厚生労働科学研究費補助金 エイズ対策政策研究事業「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関する疫学的・コホートの調査研究と情報の普及啓発法の開発ならびに診療体制の整備と均てん化に関する研究」班
研究代表者：喜多恒和（奈良県総合医療センター）

クイズでわかる 性と感染症の新ジヨージキ

あなたはどこまで理解しているか！

こちらからどうぞ

こちらからどうぞ

赤ちゃんと影を落とすもの？

エイズは過去のもの？

性病は感染しにくい？

コンドームをつければ絶対安心？

予防接種は子どもの時にするもの？

第1問

□に入る正しい言葉は？
下のa～iから選んでね。

●セックス(性行為)をすると、□する可能性と相手からうつされるリスクがある。

●□は避妊と性感染症の予防に効果がある。

●□は避妊には有効だけど、性感染症の予防には無効。

●オーラルセックスは性感染症の病原体を性器だけでなく□や□、さらには目にも運ぶ役目をすることがあるから要注意だ。

●あなたが性感染症に感染していたら、□も感染していることが多いので、□を受けてもらおう。

●エイズウイルスの検査で「陽性」と出ても、偶然性である場合がほとんどで、「真の陽性」は□分の1しかない。



第2問

セックスの安全度判定！
あなたのセックス癖はどっち？
自分の気持ちに近い方を選んでね。

a □ b ビル c 検査 d 性感染症 e 妊娠 f 30
g コンドーム h 相手 i のど

1 □ セックスの相手は本気で好きな人だけ

VS

□ セックスの相手は何人で好きな人だけ

2 □ 妊娠したくない場合はコンドームなしのセックスは断わる

VS

□ ビルを飲んでもいいしコンドームなしのセックスもOK

3 □ 相手が求める行為は「イヤだね」と言う

VS

□ 相手が求める行為は、多少「イヤだね」と思っても受け入れる

4 □ 性感染症にかかってしまったら、相手にも伝えて二人で治療を受ける

VS

□ 性感染症にかかってしまったら、治療はするけど、相手には言わない

【第1問の正解】 edgbcaihcf
【第2問の判定】
●全問正解を選んだ人→基本的にことをちゃんと理解しているね。実際の場面でもこのように行動できれば、セックスの安全度は高い。次は第5問へ。
●右を1～3個選んだ人→右側のような考え方は、どれも自分の身を守るためには決していい。セックスの安全度を高めるためにもっと知識を！次は第4問へ。
●全問正解を選んだ人→実際の場面でもこの通りに行動するとしたら、かなり危険だよ。セックスについて、自分の身を守るという面から考えてみよう。次は第3問へ。

クイズでわかる 性と感染症の新ジヨージキ

あなたはどこまで理解しているか！

こちらからどうぞ

こちらからどうぞ

赤ちゃんと影を落とすもの？

エイズは過去のもの？

性病は感染しにくい？

コンドームをつければ絶対安心？

予防接種は子どもの時にするもの？

第1問

□に入る正しい言葉は？
下のa～iから選んでね。

●セックス(性行為)でうつし、うつされる病気だ。

●□は□と性感染症を防ぐ効果があるので、子どもがほしい場合以外、自分のためにもつけたほうがいい。

●□は性感染症の□を口やのど、目に運ぶ役目をするところがあるから要注意だ。

●オーラルセックスは□しやすいため感染リスクを高める。

●あなたが性感染症に感染していたら、□も感染していることが多いので、□を受けてもらおう。

●エイズウイルスの検査で□と出ても、本当は感染してはいない人がほとんどなので、二次検査で確認する必要がある。



第2問

セックスの安全度判定！
君のセックス癖はどっち？
自分の気持ちに近い方を選んでね。

a 陽性 b 病原体 c 検査 d 性感染症 e 相手
f コンドーム g オーラルセックス h 妊娠 i 出血

1 □ セックスの相手は本気で好きな人だけ

VS

□ セックスの相手は何人で好きな人だけ

2 □ 子どもがほしい場合以外は、最初から最後までコンドームをつける

VS

□ コンドームはつけたくないし、避妊したければ女性がピルを飲めばいい

3 □ セックスの時は相手の気持ちや体調を気づかうようにしている

VS

□ セックスの時は自分のしたい行動を相手にも受け入れさせる

4 □ 性感染症にかかってしまったら、相手にも伝えて二人で治療を受ける

VS

□ 性感染症にかかってしまったら、治療はするけど、相手には言わない

【第1問の正解】 d f h g b i e a c
【第2問の判定】
●全問正解を選んだ人→セックスって一方通行の行動じゃないから、相手の思いやりが大切だね。君はそのところを理解しているみたいだね。実際の場面でもこのように行動できれば、セックスの安全度は高い。次は第5問へ。
●右を1～3個選んだ人→1問でも右側のような考え方をしていたら危ないよ。セックスの安全度を高めるためには知識が必要だ！次は第4問へ。
●全問正解を選んだ人→実際の場面でもこの通りに行動するとしたら、とても危険だよ。セックスを、自分と相手の身を守るという面から考えてみよう。次は第3問へ。

第3問 性感染症の基本を押さえよう！
正しい、正しくない、を○×で答えてね。

- 1 性感染症というのは、性行為で感染する病気のことだ。□
- 2 性感染症はフーゾクなどの性産業で働く人とその利用者がかかる病気だ。□
- 3 性感染症は1種類ではなく、何種類もある。□
- 4 性感染症は性器とその周りがかゆくなったり、ブツブツができる病気だ。□
- 5 性感染症は治療しなくても時間がたてば治る。□
- 6 性感染症は1回のセックスでも感染することがある。□



【第3問の正解】

- 1-○ 2-× セックス経験者なら、だれでも感染の可能性がある。3-○ 4-× 症状が全身に広がるものもあるし、症状が全然出ないものもある。だから、知らない間に人にうつしてしまったり、うつされてしまうということがおきやすいんだ。
- 5-× 自然に治るものもあるけど、病原体は体内に残るので再発しやすい。6-○

性感染症は「身近にある病気」だということがわかった？

セックスする時には病気の予防(うつさない、うつされない)も心がけよう。

もしも気になる症状があったら、迷わずお医者さんに診てもらおうね！



第4問 性感染症をもっと具体的に知ろう！
次の問題にチャレンジ！ ちょっと難しいかも…。

- 1 この中で性感染症はどれ？ 3個あるよ。
①インフルエンザ ②肺炎 ③梅毒 ④日内降 ⑤O-157 感染症 ⑥HIV感染症 ⑦クラミジア感染症 ⑧アトピー性皮膚炎
回答欄 ()
- 2 性感染症を引きおこす病原体(ウイルスや菌など)がいる可能性があるのは？ 複数回答可。
①精液 ②血液 ③尿 ④陰茎 ⑤口中
回答欄 ()
- 3 性感染症について無料で相談できるのはどこ？
①日本赤十字社の献血ルーム ②保健所 ③地域包括支援センター
回答欄 ()
- 4 性感染症の治療を受けるにはどこに行けばいい？ 4個選んでね。
①内科 ②外科 ③産婦人科 ④泌尿器科 ⑤眼科 ⑥耳鼻咽喉科 ⑦胃腸科 ⑧精神科 ⑨皮膚科
回答欄 ()
- 5 性感染症の予防に役立つのはどれ？
①コンドーム ②ピル ③経外射精
回答欄 ()

【第4問の正解】

- 1-③⑥⑦ 性感染症にはもっとたくさんの種類があるよ。
- 2-全部 ⑤には普通はないけど、オーラルセックスで病原体が運ばれることがある。
- 3-② 保健所では必要なら無料で検査もしてくれる。もちろんお医者さんに行ってもいい。ただし有料だよ。
- 4-①③④⑨ 受診のきっかけにもよるけど、男性は①④⑨、女性は①③④⑨に行けばいい。そのあと、医師が必要に応じて別の科に紹介状を書くこともあるよ。⑤や⑥で性感染症が発見されることもある。
- 5-① ②は避妊はできるけど性感染症予防には役立たない。③は性感染症の予防もできないし、避妊効果も怪しいね。

以上がわかれば、感染リスクを回避する行動がとれるし、何かあっても対処できるね。



第5問 将来のために知っておこう！
(a b)の正しい方を○で囲んで文を完成させよう。

- 1 性感染症の中には、治療していないと、男性は(a 無気力症候群 b 無精子症)、女性は(a 不感症 b 不妊症)になるものがある。
- 2 性感染症の中には、妊婦さんが感染していると、流産・早産や(a 初産 b 死産)になるものがある。
- 3 性感染症の中には、妊婦さんが感染していると、生れてくる(a 赤ちゃん b 小児)も感染してしまうものがある。
- 4 妊婦さんやお母さんの病気が赤ちゃんに感染することを(a 空気感染 b 母子感染)といい、赤ちゃんが胎内にいる間だけでなく、(a 出産 b 入浴)の時や、母乳をあげる時にもおきる可能性がある。
- 5 妊婦さんが(a 妊娠初期 b 妊娠中期)に風疹にかかると、赤ちゃんが心臓や目などの病気、難聴などの障害を持って生まれてくる可能性が高くなる。
- 6 日本の風疹患者の9割は(a 幼児 b 成人)で、男女別では(a 男 b 女)が(a 男 b 女)の約4倍も多い。
- 7 風疹・麻疹・水痘の感染予防には、ワクチンの(a 治療 b 接種)が効果的だ。

【第5問の正解】

- 1-b b 2-b 3-a 4-b a 5-a 6-b a b 7-b

知ってこれば防げた病気が原因で、望んでも子どもができなかったり、生れてきた赤ちゃんが障害を負ったりしたら、つらいよね。性感染症は、そういうことの原因になる可能性があるんだ。

性感染症以外にも、母子感染して赤ちゃんに重大な影響をおよぼす病気はたくさんある。その中でも、風疹・麻疹・水痘はワクチン接種で予防できる病気だ。今まで風疹に感染したことも発病もしたこともなくて、予防接種も受けていない人は(男性も女性も)予防接種を受けておこう。麻疹と水痘についても同じだよ。

男性も女性も、感染症の予防のために今すぐ必要な行動をとろう。



さあ、次は裏面を読んで知識を整理しておこう！

(性感染症＝性行為(セックス)で感染する病気)



性感染症の原因となる病原体(ウイルスや菌など)は、感染している人の血液や体液が感染し、感染してしまっている状態を指す。性行為は性行為の接触に由来することである。性病は生殖器の粘膜に由来することである。皮膚に傷口がある場合、そこから感染することもある。ときには口やのど、目にも感染することもある。ときには、これはオーラル(口交)セックスで口唇粘膜から感染することもある。性行為は1回のセックスでも感染することもあるから、要注意だ。

●クラミジア感染症と淋菌感染症

この2つは感染経路や症状が似ていて、両方に感染している人も多い。感染すると、男性は排尿時に痛みが出ることもある。女性は無症状で気づきにくく、無治療のままだと、不妊、子宮外妊娠、炎症、卵巣の危険性が高くなる。さらに、出産時に赤ちゃんに感染して新生児肺炎やという目の病気や髄膜炎をまよこすことがある。

年齢	10歳	15歳	20歳	25歳	30歳	35歳	40歳	45歳	50歳
発生数(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
発生率(人/10万人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0

発生率(人/10万人)は年齢とともに増える。10代から20代前半にかけて最も高い。30代以降は減少傾向にある。

あなたとパートナーと赤ちゃんを守るための性感染症の基礎知識

性感染症は、お互いに気を付けておくことで予防できる。正しい知識を持って、自分やパートナー、赤ちゃんを守ることが大切です。

(3つのキーワードで理解する性感染症の特徴)

1 気づきにくい

感染しても症状が出なかったり、症状が軽かったりするので、自分か感染していることに気づかないことが多い。そのため、知らないうちに人にかよってしまったり、病気が進行して重症化することがある。

2 ビンポン感染

●性器ヘルペスウイルス感染症

このウイルスは性行為や接触で感染する。皮膚に小さな潰瘍や水疱(ブツブツ)が出る。痛みに気づきやすい。放置しておくと、再発しやすくなる。ウイルスは粘膜内に残り、再発する。妊娠中に感染している母親や出産時に感染したり、手動授乳をしない状態だと赤ちゃんが生まれる前に感染し、新生児ヘルペスになる。新生児ヘルペスは最も怖いものから扱える重たいものである。

性感染症は自分と相手だけの問題ではない。女性の場合は無症状のまま妊娠すると、赤ちゃんも感染してしまうことがある。これを母子感染という。生まれてきた赤ちゃんは、重い病気になったり、障害を負うことがある。

●「梅毒」急増中！

ここ数年、梅毒患者が急激に増えている。梅毒は気づかずに全身の骨格がおかされるコワイ病気だ。しかも妊婦さんがかかると、赤ちゃんが奇形になったり、赤ちゃんだら重い病気になったりすることも。梅毒は早期治療によって治る。パートナーも同時に治療を受ける必要がある。

年	男性	女性
2000年	約1000	約500
2005年	約2000	約1000
2010年	約4000	約2000
2015年	約8000	約4000
2018年	約12000	約6000

性感染症から身を守るには

性行為にかかわらずアブソリュートの使用は、家にいる時でも、すぐに医師の診察を受けよう。男性は泌尿器科、皮膚科、内科に、女性は産婦人科、皮膚科、内科に行けばいい。性感染症は治療すれば治るものが多い。早くから、心配なら検査を受けてよ。早急で検査を受けることで、心配から検査を受けよう。早急で検査を受けることで、心配から検査を受けよう。早急で検査を受けることで、心配から検査を受けよう。

セックスの相手が多くなればなるほど、感染する危険性は減くなる。その逆は、セックスの相手は少ないほどいい。しかし、後に相手が増える場合でも、その人が性感染症にかかっていたら...? オール(口交)セックスは性感染症を口、目に直接届ける危険性がある。また、口交は出血しやすく、感染の危険性を高める。安全なセックスを選択しよう。

さらに実践する安全対策は、コンドームを使うことだ。パートナーと子どもを避けている場合は別だけど、そうでない場合は必ずコンドームをつけてセックスしよう。ただし、避妊と同じでコンドームをつけて100%感染しないという保証はない。避妊を言えれば、検査を受けてお互いに性病検査にかかっていないことを確かめておくことが大切だ。

●エイズは過去のもの？

ノー！今もエイズウイルス(HIV)に感染する人はゼロではない。HIVに感染すると、数年～十数年かけて免疫機能が落ち、いろいろな感染症に罹りやすい状態になる。エイズは免疫不全状態を指す。エイズは治療が進んだけれど、今でも早期に治療を受けることが大切だ。

私たちが「Twitter」でHIVをはじめとする性病に関する情報を発信しています。@HIVboshiで検索してね。

【性感染症予防】
- 一般の方へ

【性感染症予防】
- Humant+
【厚生労働省】
- 性感染症

【厚生労働省】
- 性感染症

【厚生労働省】
- 性感染症

性感染症に関するwebサイト

【性感染症予防】
- 性感染症

【厚生労働省】
- 性感染症

【厚生労働省】
- 性感染症

【厚生労働省】
- 性感染症

赤ちゃんに異常をきたすことがあるのでしっかり覚えてね！

「ここからは性感染症ではないけれど、赤ちゃんに異常をきたすことがあるのでしっかり覚えてね！」

「赤ちゃんに異常をきたすことがあるのでしっかり覚えてね！」

「赤ちゃんに異常をきたすことがあるのでしっかり覚えてね！」

資料 3

HIV母子感染予防研究班さん (@HIVboshi)

キーワード検索

ログイン アカウント作成

 赤ちゃんの未来のために
あなたの未来のために

フォロー

HIV母子感染予防研究班
@HIVboshi

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）「HIV感染者の妊娠・出産・予後に関する疫学的・コホートの調査研究と情報の普及啓発法ならびに診療体制の整備と均てん化に関する研究」班（代表研究者 喜多 恒和）です。班の活動内容や、性感染症と妊娠についての知識・情報を発信します。主にbot運用、内容は徐々に充実予定です！

📍 日本 🌐 hivboshi.org 📅 2018年7月からTwitterを利用しています

130 フォロー中 247 フォロワー

HIV母子感染予防研究班さん (@HIVboshi)

キーワード検索

ログイン アカウント作成

 HIV母子感染予防研究班 @HIVboshi · 3月8日
H I V 除去、マウスで成功=抗ウイルス薬とゲノム編集で-米大学
jiji.com/jc/article?k=2...
#HIV #AIDS #性感染症 #HIVboshi

 H I V 除去、マウスで成功=抗ウイルス薬とゲノム...
エイズウイルス（H I V）に感染したマウスで、免疫細胞の染色体に組み込まれたH I VのD N A を除去...
🌐 jiji.com

 HIV母子感染予防研究班 @HIVboshi · 3月8日
「ボヘミアン・ラプソディ」の影響？エイズ検査24%増
yomiuri.co.jp/national/20190...
#HIV #AIDS #性感染症 #HIVboshi

読者新聞